大崎近辺にある遺跡

品川区で有名な遺跡といえば大森貝塚ですが、実は品川区にはたくさんの遺跡があります。大崎駅の西近辺に限定すると以下の通りとなります。

1. いるきばし遺跡（大崎二、三丁目、西品川三丁目）　　集落・貝塚（※１）

　縄文時代（早期から後期）、弥生時代、・中世

1. みつぎ遺跡　（西品川三丁目）　　ほうぞうち（※２）

縄文時代（早期から後期）、古墳時代

※１　貝塚…縄文人が残した生活の跡で、食べた貝のから等の積もった場所

※２　ほうぞうち…文化財保護法において土器や住居跡などの文化財の埋蔵が確認された土地のこと

あれ？そんな自宅の住所の近くに貝塚や遺跡があったかな？と思ったかたもいらっしゃるかもしれません。

残念ながら、色々な事情により大森貝塚のようにそのまま保存されている遺跡はかなり数少ないのが現状です。

今回の記事では特に数度にわたり調査がされて徐々にその規模や内容が明らかになりつつある①のいるきばし遺跡について取り上げます。

いるきばし遺跡を知る

いるきばし遺跡が最初に発掘されたのは昭和１３年です。

この遺跡一帯は太平洋戦争末の空襲で焼け野原になり、最初の発掘より第２次世界大戦をはさんで１５年間行われず、本格的な発掘が行われたのは昭和２８年です。

この調査が行われたきっかけは、当時立正高校に「考古学研究部」があり、高校のクラブ活動の一つとして夏休みを利用して自分たちで遺跡の発掘をしたいと悩んでいたところ、クラスメートからいえの庭に貝殻が散らばっているから貝塚かもしれないよと教えてもらったことから始まり、あれよあれよと発掘調査まで進められたそうです。

遺跡めいは旧地名がいるきばし村（明治２２年にこの付近の５つの村が合併して大崎村になりました。）と呼ばれていたことからいるきばし遺跡と名付けられました。貝塚としての存在の認識は明治２５年、この時点では具体的な遺跡めいの記載はなく場所の記載のみでした。その後、いるきばし貝塚と名付けられましたが、貝塚以外にも色々発見されて貝塚に限定されなくなったためいるきばし遺跡に変更されました。いるきばしの土地の名前は今も目黒川に架かるいるきばしやいるき神社として残っています。

貝塚では動物の骨より魚の骨の方が多く発見されています。特に多いのはハマグリとハイガイで、ハイガイは現在九州より南の海でしか採れないので、この時代は今より温暖であったことが推測されます。特に注目されたのはヒダリマキマイマイ類の集中出土で「フランス料理の貝塚じん」といわれることもあったようです。

竪穴住居跡は１０軒以上発見されています。

目黒川の東側にもいくつか貝塚があり、その大半はごたんだ・大崎付近の台地に集中しています。その台地の先端部分で当時の人々が生活していたと考えられ、これらのことにより東京湾の海水が目黒川に沿って侵入していて、だんだんと後退して現在の海岸線に変わってきたことが分かります。

また、土器の発見により縄文時代前期であろうことが分かりました。

つまり、縄文時代前期は今より平均気温が約１から２度高く、海面が今より３から５メートル上昇していたため現在の関東平野のほとんどが海で、東京湾は現在の栃木県内まで広がっていたのではないかと推測されています。

縄文時代は今からおおよそ１万５千年前から２千３００年前頃までで１万年近く続いた長い時代なので、概ね６つの時期（草創期、早期、前期、中期、後期、晩期）にわけられています。縄文土器の形や模様は色々ありますが、その特徴でこの時代を区分しています。

縄文土器はこっ褐色の厚手の土器で、表面に縄目上の模様があるのが特徴です。縄文時代早期においてはイラストのようなシンプルな底がとがった深い鉢がたのものが多くみられました。

尖てい土器は底が尖っているので置いて使うことはできません。

地面に穴を掘って炉穴を作り、その穴に土器を置いて煮炊き用として使用していたと考えられています。

いるきばし遺跡では見つかっていませんが、縄文時代中期の火焔がた土器は縄文土器の中でも特に装飾が豪華な土器です。

現代では陶器は千百度から千二百度で焼かれていますが、縄文土器は六百度から八百度と低い温度で焼かれているため強度が弱く割れやすく、それを補うべく厚手に作られています。晩期になるにつれ土器の大きさも小さくなり、精巧なものが多くなります。

弥生時代になると高温で焼かれるので薄手で硬く、薄い赤褐色になり、文様も簡素になります。

この遺跡の一部の調査地点はほうすい小学校の通学路にあたり、調査から外れた貝を洗浄して、小学校の児童に2枚ずつ贈られたそうです。

同校には調査で検出した貝層の標本も贈られ、校舎に入ってすぐの入口に展示されています。もし見学する機会があれば自分の住んでいる足元の歴史を少し感じることができるかもしれません。

【参考文献】

　　・品川区教育委員会　1989、1994、 2021　3　「東京都品川区　いるきばし遺跡（A地区）」

　　・品川区立品川歴史館　2014　「品川地中探検記」

　　　　　（編集：後藤・波木・片桐）